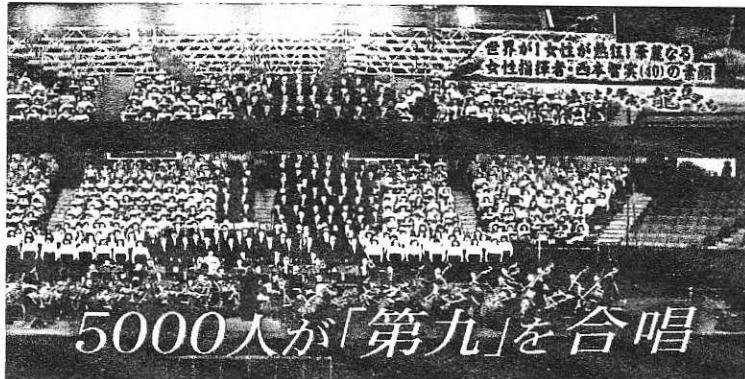


23年
2月号

2011年2月10日
編集・発行／大正会館内
大正フロイド：西風勝

日本武道館「第九」夢のコンサートに参加

2010.12. 21(火)



いよいよ第四楽章、我々の出番だ。ソリストの後スムーズに動き出した。一番しんどい第一ガもなんとかこなしハ五五小節に入る今まで良くやった、もう少し大だといふ思いで急に感動が起つてくる。一人一人の声は小さくて、五千人の声がハーモニーのうねりとなつて、武道館を揺るがしていった。歌い終わった後、観客の鳴り止まぬ拍手を聞きながら、達成感が全身を駆け巡つた。

人は個人参加も多く数十回の練習の後、参加している人が多いと聞いた。大正フロイデは平成十九年以来四回の定期演奏会や鳴門の演奏会のたびに、感動や感銘を受けたのではあるが、いつもベートーヴェンの第九の奥深さの前にはひれ伏すしかなかつた。十六時からのリハーサルの後、十九時より第一楽章が始まつた。我々の席は指揮者の真正面。頭、髪、目口、手足まで心行き届かせた指揮から、生み出される音楽に感動していた。

5千人のハーモニーが
武道館をゆるがす！

バス 深谷 廣

十二月二十一日、日本武道館での第九コンサートに我が大正フロイド有志七士九名は出演した。
指揮者 西本智実さん。
オーケストラ、東京交響楽団。

指揮者が大正ノ「イテ」の運営指導して頂いている西本ひろみさんのお嬢さんでもあり、一回ではあるが特別レッスンでも御指導いただいているので、団員も練習に力が入っていた。

一
歡喜の歌
この喜びを
心に噛みしめて
ソブラン
武田 康康

感激！ 夢にまで見た日本武道館の前に、今私は立っている。遂に来る事が出来た。一年前募集を見た時、来年の事など・・・どうなつていてるか解らない、と思つて諦めていた。夏頃になつてやつと決心しました。

まだまだ先の事と思つていたのに。今、私は武道館の前に立つている。次々と集まつて来る人達もみんな笑顔、お互いに写真を撮り合つていて。あっ！ いる。フロイデ合唱団の人達も。ホールの中は、楽団後ろと三階に、参加する人達がギッシリ。聴衆者も満席。輝くライトに指揮者、西本智実さんの入場 大きな拍手、拍手。いよいよだ。

私達にもライトが当たる。
緊張のあまり身震いが。
今、私達は世界的有名な指揮者のタクトで、五千人の大合唱が高らかに始まる。一生懸命に「歓喜の歌」この喜びを心に噛みしめて、私も歌う。歓喜の大合唱が会場いっぱいに響く！すごい！迫力！割れんばかりの大拍手が鳴り止まない。「この歌のように、世界中の人々が生きる喜びと互いに感謝の心を忘れず、仲良く、平和な世界を願う。」
この大きな感動を与えて下さった、フロイデ実行委員の方々、並びに御指導頂きました先生方に深く感謝いたします。
そして、フロイデ合唱団の皆様方、ありがとうございました。

私たちの「第九」

平成23年2月13日(日)
於：大阪市立千島体育馆
(大正区千島2-7-9-3)

13:30 開場 14:00 開演

プログラム

『第1部』 オペラ「アイーダ」より
『凱旋行進曲』

出 演

(合唱) 大正区民合唱団(大正フロイデ)
区内小中学生、高校生ほか

(指揮) 高谷 光信

(演奏) エウフォニカ管弦楽団、区内中学・高校吹奏楽部

(ソリスト) ソプラノ 西側 槟里子

朗俊昭西垣田

(司会) NHK神戸放送局 玲城 和久

心一
バツニ武道館
三好
香那

私はとつて十数年振りの上京が、「第九」を歌う為とは全く想像もしなかつた事。それが現実となつて、日本武道館へ到着し、メンバーの顔を見て安堵感と緊張感が同時に出て来ました。

そして、いよいよ館内へ。会場全体で歌うのがどういふ感覺なのか、興味津々の中、ゲネ(直前リハーサル)開始。西本智実先生の華麗で力強い指揮に目を奪われたまま、第四楽章へ。いざ声を出すと会場全体のまとまつた合唱に感激。調子も上がつていきました。練習後、西本先生から合唱が「奇跡的」にもずれていない事や、細かい指示を聞き、十分に頭に入れて本番待ちとなりました。

ほぼ満席の会場に緊張しながらも、「この場に参加している喜びと感謝の気持ちを感じているうちに、第一楽章が始まりました。正確無比で且つスマートな指揮に応えて、オーケストラの響きも素晴らしい音色となり、特に中低音部の弦の美しさに感動しながら合唱を迎えました。自分の納得出来る歌い方に心掛け、一つ一つ注意点を思い出しながら



ら歌い続けました。その間、会場全員の気持ちが間違いなく一つになつていていたと思います。

皆で歌う喜び、歓喜の歌を歌う喜び、超一流の指揮演奏で歌える喜びが、全ての人々に感謝したいという気持ちになつてくるのを感じました。

演奏が終わった時、満足感一杯で、心の中で「この感動を有難う」と叫んでいました。

「サンターフィアードー、『選擇はあれ』」

ソプラノ出水幸恵



武道館本番前夜は興奮で寝つけぬまま当日の朝を迎えた。寝不足にもかかわらず頭は以外にすっきりとしており、気合をいれて「いざ東京！」と家から出るとまだあたりは真っ暗で空を見上げると私を応援してくれるのか頭上には北斗七星、北西の空には大きなまんまるお月様が優しく輝

長い一日になるから無理せずゆっくりと、と思つたのも東の間。新幹線では富士山に興奮し、スカイタワーを見ては記念写真を撮りまくり、神聖なる明治神宮では時間がないからと超特急で参拝し、非常に体力のいる観光でしたが、仲間とのワイワイ笑いがあふれる楽しい珍道中になりました。

日本武道館に到着後は、まずはリハーサルを済ませよいよ本番。張りつめた空気の中、西本智実さんの指揮により静かに緊張した

演奏が始まり、その後展開される演奏は、会場全体から湧き出るかのようにして、も迫力があり、またしなやかに表現される指揮はまさに「sanfater-fudge」でした。自分が出演者であることも忘れて終始魅了されっぱなしでしたが、第四樂章の合唱では言葉にならないくらいの最高の歡喜を味わうことができました。

このような貴重な機会を与えてくださった西本先生をはじめ関係者の皆さま、そして大正フロイデの仲間に改めて感謝します。本当にありがとうございました。

日本武道館に感動の嵐 味りやまね拍手

『ヒュー』と空を切り、
撃る指揮棒の音が・・・。
見えますか?
踊るように優雅な指揮の姿が。
感じますか?
『サツ』と楽譜をめくるス
ピード感を・・・。
西本智実先生による「夢
の第九コンサート」「武道
館」が始まりました。
良く聴こえます。
ソプラノ、アルトの声が

(今まででは自分達のパート
しか聞こえなかつたのに)
九月の智美先生による練習初日、どうしたとか全くリズムに乗れず、哀しいほどの出来でした。

今は、正面から左右から、追い駆けつこの「一ガ」の歌声が聞こえます。。。。幸せを感じた一瞬でした。

先生から「第一にスピード、第二に強弱、この部分は語りかける様に、又、強く応える様」と教えていただき事は、すっかり忘れて夢中で唱いました。忘れられない演奏会となりました。

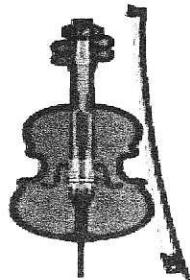
まだ大正フロイデに入会されていない皆様、合唱つて素敵だと思いませんか?もつと実力をつけ智実先生の指揮で歌える日を目指し、一緒に練習しましよう!

大正区、歴史の中に
「第九」あり

アルト 古川 澄子



大正区に引越しして来て
早十八年。大正区の印象は
都会の田舎！！親しみ易い
人々と物価が安い事に感動
したもので。でも文化が
感じられなかつたのも事実
で、その上、斎場から微か
に昇る煙はショックでした。
それから何年か後、大正



区に捕虜収容所があつた事を、知人を通して知りました。又、大正区に日本で最初の飛行場があつた事も聞き、「ここに住む者として、歴史を知りたいと勉強会に参加させてもらいました。大正橋欄干の「第九」の音符を見学したり、映画「バルトの楽園」で、この時の指揮者が大正区に居た事を知り、感慨深く鑑賞したのを覚えています。

そして、「第九」の合唱団が設立され、私は第一回目の演奏会に喜んで参加させて頂きました。文化の薫りを感じながら。

その後、仕事等で忙しくなり、数年が流れました。今年で五年目だと知り、時の流れの速さに加え、より高度な合唱団となり、上海万博にも出場されると聞き驚きました。

今回日本武道館で、しかも西本智実さん指揮だと知り、長い間歌つていなかつた私は出場を戸惑いました。でも、団員の皆様の優しさに押され出場させていただき心から感謝しております。

役員の皆様方お世話になりました。本当に有難うございま

クリスマスコンサート

2010.12.23(日)

“愛”を歌い上げる フロイデに！！

テノール 伊波 新吉

テレビでお馴染みの「戸黄門」や「宇宙戦艦大和」のテーマ曲を、小学生の児童たちが演奏すると、コンサートの雰囲気が盛り上りました。指揮棒を振る先生の動きと、子供たちとが一体となつた演奏はとても素晴らしいでした。区民の交流の場であるクリスマスコンサートは、子供から大人まで、世代を超えて楽しめた場だ、と思いました。

さて、我等がフロイデも得意な「第九」を思い切り歌い上げ、「アヴェ・ヴェルム・コルpus」を優しく歌う。そして最後の仕上げに照明を落として、ペンライトを大きく振り歌った「きよしこの夜」は、会場全体を包みました。私は大正フロイデで、初めてこのコンサートに参加しました。レッスンを続け、数々の発表の場にも参加しましたが、次々と挑戦する課題曲に、ただ懸命について行こうとしているのが現状です。

ここまで頑張るのは、先生や仲間たちのお陰でもあります。出来の悪い生徒で、先生方は申し訳ないが、これからも続けたいと思います。歌を通して、多くの人と交流出来て嬉しいです。

大正フロイデが、もっと市民に親しまれ、音楽を通して「愛」を歌い上げることを心から願っています。

フロイデのさらなる発展を願い“フロイデ！！”



ペンライトでクリスマスモード アップ

ソプラノ 高田 潤子

スコンサート。今回で六回目のクリスマスコンサート。私が初めてフロイデの団員として、又、平尾小学校生涯学習のコーラスの一員として参加したのは、第三回目からです。当初は舞台に立つ事、又大勢の人前で歌う事 자체、ドキドキものでした。しかし回を重ねる毎に、そのドキドキ感にも慣れてはきましたが、やり直しの効かない一度きりの舞台には変わりありません。私自身フロイデ入団後、定期演奏会は勿論、練習時でも未だ満足出来る声は出せていません。でも、西本先生を始め講師の先生方、又、合唱団に関わる全ての人たちのムードとパワーで少しばかり納得出来る声が出来始めていると思っておりります。コンサート最後の「きよしこの夜」では、会場も一緒にペンライトが振られ、クリスマスマード一段と盛り上がりました。



「行え! 今一ツ! 」 云々

アルト 松田智江子

大正区民ホールで開催されたクリスマスコンサート。トリに登場した「大正フロイデ」は高らかに誇らしくしとやかにそして、それなりにそれらしく、ベート一ベンの「第九」合唱部分を歌い上げました。壇上にすらりとほほを染め、昂揚した昔の少年少女達が並びます。満場の拍手にブラボ一の声。

遡ること五年前、大正区にベートーベンの第九を歌う合唱団が出来る?のニュース。大正区にそんな人達いるの?ドイツ語で歌うねん?カラオケと違うで?たくさんなの??が頭に浮かびました。

でも、地元にプロの音楽家人の人達が来て、素人の人達に手取り足取り指導して下さる。この機会は絶対逃したくない。会う人ごとにこの事を伝えました。年をとつても地元なら何とか参加できる。私の最終の居場所が出来る。

ふたを開けたらすごい数の人達が集まりました。

へー!大正区も捨もんじやないなと思いました。

それから今日まで本番前までは、ハラハラドキドキの連続ですが、指揮者の西本マジックで見事に乗り切ります。

卯年も素敵な西本先生の笑顔と言葉に魅せられた「大正フロイデ」は大正区内外で飛び跳ねます。

大正フロイデからの お知らせ

2・3月定期練習・補講日程

2月 2日(水)	バス	補講
2月 4日(金)	全員	定期練習
2月10日(木)	全員	定期練習
2月12日(土)	全員	リハーサル
2月23日(水)	ソプラノ	補講
2月25日(金)	全員	定期練習
3月 2日(水)	アルト	補講
3月 4日(金)	全員	定期練習
3月 9日(水)	男性 パート	補講
3月11日(金)	全員	定期練習
3月18日(金)	全員	定期練習
3月23日(水)	ソプラノ	補講
3月25日(金)	全員	総会



なんでも可能にしてしまう 情熱あふれる合唱団

合唱指導 小川はじめ

大正フロイデ団員の皆様方、お世話になつて居ります。皆様のお仲間に入れて頂いて、一年半程経ちました。毎回の練習で指導させて頂く私の方が、怖くなつてしまふ程の、皆様方の熱心で情熱あふれる歌声に触れ、沢山の元気を頂いております。いつも身の引き締まる思いで指導をさせていただいております。回を重ねる毎に、皆様方の歌声が伸び、充実し、演奏の理解も少しずつ深まつてこられる様子を、嬉しく感じて居ります。

今年は、五周年の記念演奏会もある節目の年です。



皆様方が、練習で確實に力を付けて頂けます様に、最大限に努力、工夫致します。もし、何かご希望等ありましたらご遠慮なく仰って下さい。大正から日本を突き抜けて、世界に羽ばたく合唱団となれるよう、楽しみながらコツコツと、頑張っていきましょう！



H22. 12. 23クリスマスコンサート
西本先生と吉村サンタさん

※当面の日程

行 事 名	日 時	場 所	内 容
市民音楽祭	2月6日(日) 16:52~59	東成区民センター 「地下鉄千日前線:今里	服装(白黒) 16:52~出演 「レクイエム」よりAgnus Dei
第5回大正区 第九定期演奏会	2月13日日)	市立千島体育館	「アイーダ」、「第九」
22年度総会	3月25日(金)	区コミュニティセンター 4・5会議室	22年度事業報告、23年度事業計画等
茨木市 第九	4月10日(日) 11:00~	辯天宗冥応寺境内 茨木市西穂積	「第九」:リハーサル4月9日(土)午後(未定) (参加費1500円)
鳴門第九 第30回 ペートーヴェン交響曲演奏会	6月4・5日 (土・日)	鳴門市文化会館	「第九」

「第5回大正区第九演奏会」今年の注目点！！

- ☆ 「アイーダ」の演奏は区内の中学生等の吹奏楽部員とオーケストラ併せて100人のコラボ演奏。続く第九では子どもたちだけで120人、大人も200人を超えるので、合わせて330人とこれまで最大の規模となります。5周年の今年、皆さんもがんばりましょう。木津川の堤を歩いた天国のドイツ兵達のことに想いを馳せて、堂々とそして高らかに大正の空に向って歌いましょう。」
 - ☆ 2月4日付けのサンケイ新聞(大阪欄)にわがフロイド「第九定期演奏会」が掲載されました。『世代を超える区民結束』、ベートーヴェン交響曲「第九」から、ヴェルディのオペラ「アイーダ」にイタリア語で初めて挑戦。!
§ 西風団長談：『合唱を通して生まれた区民の結束が、世代間の一体感につながった！』。



△事務局通信

1月14日に創刊したフロイディッヒ・フリューゲルはいかがでしたか？区長のごあいさつにもありましたが「大正フロイデ」は大正区の宝物です。従って、この合唱団は私たちのものであると同時に、全区民のものです。これからも区の街づくりのためにも、私たちは合唱活動を通じて頑張りましょう。これからも団報は毎月発行しますが、皆さんからの記事やご意見をお待ちしています。練習会場の団報原稿箱にどんどん入れてください。